

J Rサービック労働組合

ジャストニュース

No. 63

2025年4月13日

J Rサービック労働組合
発行責任者 柳楽 関

中間決算！

営業収益 **45億3千万円**

営業利益 **1億7千万円**

これで出せないとは
言わせない！

4月10日、2025年度賃金引き上げ、夏季手当、諸手当、労働条件に関する申し入れに対する団体交渉を開催しました。組合の趣旨説明に続き会社は、2024年度3四半期の営業収益が対前年比105.9%の45億3千万円の増収となり、営業利益も1億7千万円の増収増益になったことを明らかにしました。以下は、会社の趣旨説明です。

我が国における経済状況についてですが、内閣府発表の3月月例経済報告によりますと「景気は、一部に足踏みが残るものの、緩やかに回復している。」とされており、雇用・所得環境が改善され緩やかな回復が期待される一方で、「物価上昇の継続が消費者マインドの下振れ等を通じて個人消費に及ぼす影響などが、我が国の景気を下押しするリスクとなっている」との慎重な見通しが示されています。

次に当社収入の大部分を占めるJ R東海の状況についてですが、観光利用中心の土休日が好調な傾向が続き、お客様のご利用が増加したことなどから増収・増益となり、東海道新幹線の第3四半期における運輸収入は対前年同期比677億円(7.3%)増の9.997億円となりました。

2024年度第3四半期の営業収益は、作業量の増加、契約の見直し等により45億3千万円(対前年比105.9%)と増収となりました。また、営業利益は1億7千万円と、増収増益となりました。これは、観光利用中心の土休日が好調な傾向に加え、新幹線のビジネス利用も少しずつ回復していることによるものですが、未だに、コロナ前には届かない状況です。また、広告媒体や他の求人施策等による採用経費の拡大、物価上昇による物件費の増加、各種設備の老朽取替など営業費用も増加傾向にあります。こうした状況下、利益を上げていくためには、親会社J R東海の期待に応える高品質なサービスを提供しつつ、さらなる経費節減に取り組むとともに、多能化や業務改善により効率的かつ弾力的な業務体制を構築していく必要があります。以上申し上げましたように、当社を取り巻く経営環境は課題も多く予断を許さない状況にあります。当社の収益構造は人件費が収入の9割を超えており、ベースアップや手当等人件費の上昇が経営に大きな影響を及ぼします。今次交渉においてはこうした状況を見通したうえで、他企業の賃上げ状況や物価上昇に伴う社員の生活水準維持にも配慮しつつ、貴側が述べられた要求趣旨も含め、真摯に議論してまいりたいと考えています。

次回の団体交渉は4月25日です。満額回答を追求します。

メールアドレス・jsrou@yahoo.ne.jp

